

池田市 「キャラバン・メイト連絡会発足からの取り組み」

キーワード	認知症の人が住みやすい街づくり 始まりはここから 出来ていることから 出来そうなことから 地域住民・認知症サポーター
-------	--

○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人口	103,674人	高齢者人口	27,833人 (高齢化率 26.8%)	面積	22.14 km ²
市の紹介	<p>池田市は、大阪市の中心部より北西に15 km²の所に位置しています。市域の中・南部は市街化され、国道・幹線道路が通っており、交通の便は良いです。北部は五月山や農地であり、交通機関は車です。</p> <p>また、2019年に市制施行80周年の節目を迎えました。人口10万人のコンパクトな街ですが、市域南部には大阪国際空港があり、交通の要所としての役割を担っています。</p> <p>ダイハツ工業の本社、日清のカップヌードルミュージアム、ウォンバットやアルパカのいる「五月山動物園」があり、国内外の観光客で賑わっています。</p>				

① 活動の概要

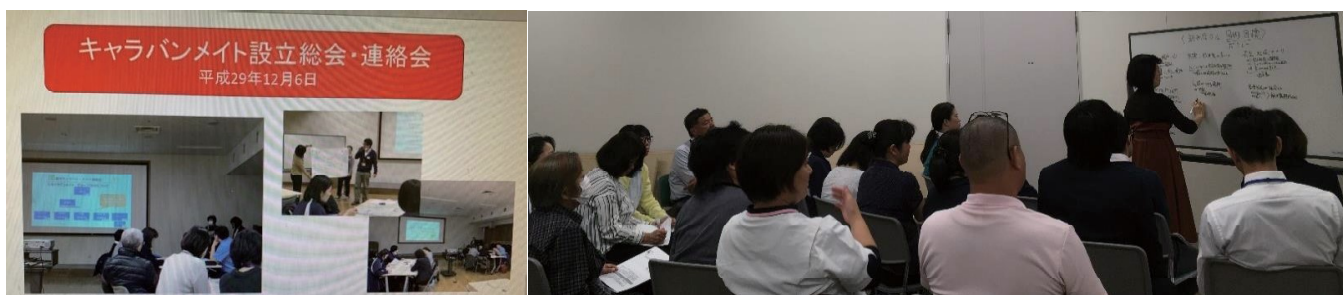
取り組み内容	キャラバン・メイト連絡会が地域の認知症啓発活動を進める
取り組みの実施主体	キャラバン・メイト連絡会
連携した機関等	行政、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員
活動開始時期	平成29年12月から

② この活動に取り組んだきっかけと経過

池田市では、認知症の啓発活動がなかなか進んでおらず、地域住民の間では、「認知症だけにはなりたくない」などの声も聞かれる状態でした。また、参加者を一定数確保することが難しく、定期的に認知症サポーター養成講座を行うことができていませんでした。小学校や中学校での認知症サポーター養成講座の開催についても、実施に向け教育委員会へのアプローチを行っても進まない状況がありました。

そのような状況の中、中学生が福祉体験をするため施設や事業所を訪ね、認知症の人に接する機会があることを知りました。既存の取り組みを活用して、1つの中学校の校長先生に再度、認知症サポーター養成講座の開催を提案したことから、中学校での養成講座が実現しました。

池田市での取り組みを組織的に行えるよう、平成 29 年 12 月 6 日、キャラバン・メイト連絡会を立ち上げて、養成講座の展開のみならず、平成 30 年度には、地域の啓発活動につながる認知症見守り声掛け訓練を実施しました。



【豊能圏域】
池田市

③ 活動内容

認知症サポーター養成講座の開催	平成 30 年度実績 16 回 1,222 名 令和元年度は市内の全 5 中学校、 2 小学校の留守家庭児童会にて実施
認知症高齢者見守り声掛け訓練	平成 30 年度 52 名 令和元年度 45 名 参加
認知症カフェの計画・勉強会の実施	令和元年度 6 月・10 月実施

実行委員に加え、市民から募った認知症サポーターの方々と取り組みました！

小・中学校での認知症サポーター養成講座



中学校での様子



小学校での様子

4 心に残ったのはどんなことですか？
おばあちゃんが、みんなだれかわからなくなったときに、ぼくがぼくがいるからだいちょうぶって、いったところかがこうにのりました。

5 何か自分のできそうなことはありそうでしたか？
じっとしている人や、こまっている人がいたら、たすけてあげたいです。

子ども達の素直な意見や感想・気づきから主催者側も学ぶことが多いです。

認知症カフェについて考える

認知症カフェ 講演会

日時：2019年 5月28日（火）
午後1時30分～4時


会場：池田市市民会館 5階大ホール

内容

第一 講演「認知症カフェの立ち上げと継続について」
～認知症カフェを創出した地域づくり～
講師：認知症介護研究・研修センター副センター長 矢野 昭雄

第二 グループワーク 池田市の認知症カフェの立ち上げについて話し合ってみよう！
認知症カフェって何？ 誰がやるの？ どのようにやるの？ 認知症カフェの役割は何？ 認知症カフェの立ち上げに成功させるには？ 認知症カフェを立ち上げたい！ どうやらやらはららされるの？ など、の疑問にお答えします。
【認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくり】のために、何が出来るかみんなで考えよう！

お問合せ・参加申し込み
池田市総務 地域支援課（072-754-6288） 先着 80名 参加無料
主催：池田市民会館・池田タイムズ 協賛：池田保健福祉局地域課




どんな認知症カフェがあったらよいか、立ち上げはどうしたらいいか、みんなで考える機会を持つことができました。

商店街での検索・声掛け訓練



商店街で、認知症高齢者が行方不明になったという想定でグループに分かれて検索訓練を行いました。



どこからどのように検索するか打ち合わせ。



実際に、認知症高齢者役の方に話し掛ける様子。



市のキャラクターふくまる君も認知症啓発活動に参加！



④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

- ・キャラバン・メイト連絡会は、ボランティアならではの取り組みを進めていく一方で、地域包括支援センターや認知症地域支援推進員との役割分担や、どの機関がイニシアティブを取るべきなのか課題を感じており、共に取り組みを進めていくことができるように、会議やイベントがある毎にお知らせし、取り組みの共有を図っています。
- ・キャラバン・メイトは、各々に本業がある中で、ボランティアで活動を実施しています。そのため、「何か自分のできることをしたい！」という気持ちを持ち続けられるよう、時間がある時や参加してみたい時に、活動に参加できるような体制を作っています。

⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

- ・認知症サポーターの数は、国が目標とする養成数にはすでに達していますが、地域では、認知症サポーターが活動できる機会が少なく、活動には繋がっていません。
- ・しかし、キャラバン・メイト連絡会だけでなく、行政も認知症サポーターの活動支援について後方支援を行い、活動の場を広げることができるよう、協働しながら取り組んでいます。
- ・認知症地域支援推進員や地域包括支援センターとの連携
- ・関係機関、地域の土壌づくりの難しさ

⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

- ・認知症サポーター養成講座の教育機関での展開（小学校・中学校）
- ・認知症カフェの開催
- ・認知症見守り声掛け訓練の継続的な実施
- ・認知症サポーターの活動の機会を増やす→チームオレンジへの転換
- ・認知症啓発活動につながるイベントの実施

この活動を通して見えてきたポイント

- 認知症サポーターとして活動したい人がいる
- キャラバン・メイトとして活動したい人がいる
- 活動したいと思う人たちの力をうまくマッチングさせる仕組みが必要
- 認知症の人の想いを伝える役目が私たちにはある！